社員に「休み休みWork Style」を推奨

働き方の変化を受けて、健康維持を目的に啓発

花王

花王は9月10日より、本社（茅場町事業場）に勤務する社員を対象に、就業時間内に積極的な「休息・休憩」を取り入れた働き方を「休み休みWorkStyle」と称し、その推奨を開始している。

在宅勤務やリモートワークなど働き方の多様化が進む中、この取り組みを通して、これまで以上に働きやすい環境づくりを推進し、社員の心身の健康維持と、業務の生産性向上に努めていく。

昨今、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、人々の働き方はこれまでと大きく変わっており、特に在宅勤務やリモートワークの定着は、フレキシブルで柔軟な働き方を創出している。そうした中、さまざまな課題も見出されており、通常勤務時であれば通勤時間に充てられるような時間にも、間断なく予定を入れてしまったり、働く場所が自宅中心となることで時間に制限なく働いてしまうようなケースも見受けられる。

現在同社では、感染拡大予防の観点から、主にオフィスワーク中心の本社社員は在宅勤務を基本としているが、社員の問診データや「休息・休憩」に関する社内調査から、現行のフレキシブルな就業に対応しつつも、就業時間内の適度な休息・休憩が必要と感じている社員も多くいることがわかった。

そこで、本社社員を対象に、就業時間内でも積極的な「休息・休憩」が取れる社内風土の醸成と環境づくりを進めていく。

具体的には、1時間あたり5分～10分の休憩をとることを推奨する。在宅勤務中でもこまめな休憩をとり、より業務に集中できるよう「リフレッシュタイム」の活用を進めるとともに、めぐりズムのアイマスクなど自社製品配布も計画している。

また、上手に休憩を組み込む方法として、会議予定を送信する際、少しの「思いやり」をもって終了時刻を5～10分程度前倒しで設定するなどの工夫を呼びかけていく。

さらに、より多くの社員に「フレックスタイム」の活用を推奨する。柔軟な始終業で、プライベートや自己啓発、リフレッシュの時間を取り入れてもらい、一人ひとりのワークライフバランスの向上を図っていく。

「休み休みWork Style」の社内への浸透に向けては、これらの取り組みを推奨する際のヒントとなるような情報提供を行う社内ポータルサイトの設置や、取り組み成果と課題の見える化の実施などを予定している。

社会的な視点でも「休息・休憩」に対するポジティブな気運を高めるべく、今後は、グループとして全社的な制度化に向けた取り組みへと発展させていくことを目指す。

私のH＆B日記

サンドイッチの哲学

昔からなぜか、サンドイッチに強く惹かれる。真新しさなく台所に溶け込む食パンと冷蔵庫に常備される食材が掛け合わさるだけで、瞬く間にご馳走へと変身する。その概念構造こそ私を虜にする。

サンドイッチにまつわる最も遠い記憶は、幼稚園時代に遡る。ドイツに住んでいた当時、同級生のお弁当は専らサンドイッチだった。

合理主義な国民性からか食パンにハムやチーズを挟んだだけの武骨なものが多かったが、丁寧に彩られた私のお弁当より妙に食欲を掻き立てられた。無骨さから漂う余白こそ、強い吸引力を生み出す。「隙ある人がモテる」ロジックと通ずるのかもしれない。

学生時代は、コンビニのサンドイッチに誘惑された。当時は気軽に購入できる価格ではなかったが、具材の組み合わせを見ているだけで美術館にいるような高揚感に包まれた。

中でもレタスを添えた「レタスサンド」は、コンビニが生み出した最高傑作だと独断と偏見のもと断言したい。レタスとパンという簡素な食材が互いを引き立て合い、「シーズの最大化」を具現した商品なのだ。

コロナ前にはしばしば、サンドイッチを求めて関西に赴いた。大阪や京都は、リーズナブルなのに忍ばせるサンドイッチを出す喫茶店の宝庫と言える。

中でも心を鷲掴みにされたのは、京都市にある「喫茶アマゾン」の「玉子トースト」なるチーズ入りの卵焼きサンドだ。柔らかでほろりと溶ける卵のコクがチーズによってさらに際立ち、シンプルなのにヌケモレなく完結する。「トゥーマッチは不足と同じくらい命とりになる」。サンドイッチづくりとは、解を常に1へ整える連立方程式だと思った。

自粛ムードが続く中、旅行など非日常空間へ赴くことは未だ難しい。しかし日常の掛け合わせにより胸高鳴る非日常性を生み出せると、サンドイッチに学ぶ。コロナ収束が待たれる中、サンドイッチの哲学に踏襲した楽しみ方を模索していきたい。（高）

ポーラ化成

社員のキャリア自律を促す組織開発サービスを導入

ポーラ化成工業は、一般社団法人プロティアン・キャリア協会が提供する従業員のキャリア自律を促す組織開発サービス「プロティアン・キャリアドック」を2021年6月より開始し、約6カ月にわたり実施する。

「プロティアン・キャリアドック」は、厚生労働省推進のセルフ・キャリアドックに現代版プロティアン・キャリア理論を組み込んだ、従業員のキャリア開発を推進する総合的な組織開発サービス。セミナー、研修、キャリア面談、キャリア戦略会議の体系的なパッケージで行動変容を支援する。

自律し自ら考え動く従業員の育成を通じて「変化に強い組織づくり」と「生産性・創造性向上」を目指す。支援プログラムが多彩なため、それぞれの組織課題に合わせた細やかな支援が可能だ。

従来の一般的な研修プログラムは、キャリアの棚卸や過去分析がメインで、未来に向けた行動変容を起こしづらい点がネックだった。同サービスでは従業員が自身のキャリア戦略を具体的に描き行動できるよう、自己分析を丁寧に行うことはもちろん、外部環境までも分析の上、具体的なアクションプランに落とし込んでいく。

また、変化の激しい時代に自律的にキャリアを形成していくためには、昇進・昇格・部署異動といった組織内の経歴だけでなく、様々なライフイベントで培った能力を蓄積していく過程としてキャリアを捉える必要があることから、同サービスでは独自モデル「キャリア資本」の考え方を用いて、従業員が過去の経験で何を得てきたのか自身の市場価値分析の上、将来キャリア像を明確にする。これにより具体的な行動が可能になり、従業員のキャリア自律を促す。

さらに、同サービスでは、個人と組織のポテンシャルを最大化に紐づけるキャリア自律を促す。人事戦略の一つとしての施策実施では、組織戦略と紐づけた人材育成は難しいためだ。キャリア自律型組織づくりを推進するためには、組織として従業員の個性を理解し活かす環境を提供していく意識が重要であるため、同サービスでは、対象従業員の上司に対してもプログラム実施内容の共有や上司と部下（対象従業員）でのキャリア面談を行う等により、従業員のキャリア形成への理解・支援を促す。

ポーラ化成工業株式会社 POLA CHEMICAL INDUSTRIES,INC. × 一般社団法人 プロティアンキャリア協会

「ピンクリボンキャンペーン」を実施

花王グループ

花王グループは、10月の「ピンクリボン月間」を含む、10月1日～11月30日まで乳がん早期発見啓発活動「花王グループ ピンクリボンキャンペーン2021」を実施する。

乳がんは、早期に発見・治療すれば治癒率が高いにもかかわらず、日本では欧米に比べて検診受診率が低く、乳がんによる死亡率は増加傾向にある。

そこで花王グループでは、乳がんの早期発見の大切さをより多くの人に伝えるべく、2007年から乳がん早期発見啓発活動として「花王グループ ピンクリボンキャンペーン」を実施し続けている。

2021年も、がんを経験したピンクリボンアドバイザーが講師となり、中学校・高校でがんに関する授業を行う「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」（主催＝認定NPO法人乳房健康研究会）への支援を引き続き実施する。

講師が自らの経験を踏まえ、がんや乳がんについての正しい知識を伝えることで、学生の健康に対する意識向上を目指す。また、がんを経験した人が講師役を担うことで、がん経験者の活躍の場を創出する。

生理用品ブランド「ロリエ」では、女性の健康を応援するブランド総合キャンペーンを実施する。数量限定品を発売するほか、期間中、ブランド特設サイトにてクリック募金を実施し、女性の健康を支える活動に寄付する。

化粧品ブランド「KANEBO」では、ピンクリボンキャンペーン期間中、店頭や公式サイトなどで、「カネボウ ボディリピッド ウェア」を使用したセルフチェックの方法を紹介する。また、対象商品の国内での売上金額のうち一定額を、「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」に寄付する。

化粧品ブランド「KANEBO」「トワニー」の取扱店では、美容部員がセルフチェックの方法を記載したリーフレットと、セルフチェックに使えるボディクリームのサンプルを数量限定で配布する。

海外では、アジア事業展開国の一部とロシアの花王グループ会社にて、セルフチェックの方法や乳がんに関する情報を、店頭やデジタルコミュニケーションを活用して伝えていく。

男性の家事参画推進セミナーを横浜市と共同開催

ライオン

今日を愛する。LION　OPEN YOKOHAMA

ライオンは、横浜市と男女共同参画推進に関する連携協定を締結し、その取り組みの第1弾として、10月23日に日頃の家事を見直す「家事シェアセミナー」を共同開催する。

横浜市内に在住・在勤の夫婦・カップルなど先着40名を対象に、食器洗い・風呂掃除の科学的・効率的なやり方や家事を通じて家族のコミュニケーションを円滑にするコツなど、Zoomを通じて紹介していく。

横浜市では、男性の家事・育児・介護への参画のきっかけづくりや具体的な機会の創出に取り組んでおり、ライオンは「夫婦円満都市推進プロジェクト」「Kaji×Kaji プロジェクト」で築いた家事シェアのノウハウと、長年蓄積してきた育児に役立つ情報を通じて後方支援をすることにより、横浜市における男女共同参画社会の実現と地域の活性化に貢献していく。